

医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者
患者の 63.3%「余った処方薬とっておく」
受診先クリニックの選択理由「鼻症状を治したい」
医師に期待すること「症状の原因についておしえてほしい」
～医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者 2702 人の「治療に対するホンネ」調査～

月 600 万人が利用する日本最大級の病院検索・医薬品検索・医療情報サイト群ならびに医療者向けサービスを運営する株式会社 QLife (キューライフ/本社: 東京都港区、代表取締役: 有瀬和徳) は、医療機関(耳鼻咽喉科を標榜するクリニック)に通院中のアレルギー性鼻炎患者 2702 人を対象に、アレルギー性鼻炎治療に関する意識調査を実施、調査結果を公表した。

【調査結果概要】

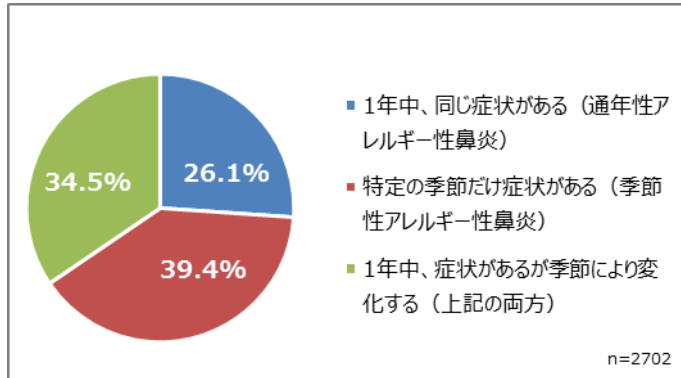
- ◆医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者
約 3 人に 1 人「通年性アレルギー性鼻炎と季節性アレルギー性鼻炎の合併」と推定
- ◆医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者
77.9%が 2016 年版 鼻アレルギー診療ガイドラインが定義する「中等症」以上と推定
- ◆アレルギーの原因物質の特定について、
医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者の 17.2%「検査しておらず、自己判断」
- ◆医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者の 9.0%「舌下免疫療法」「皮下免疫療法」の経験あり
- ◆医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者の 56.5%が鼻炎の症状で受診施設を変更
- ◆アレルギー性鼻炎で市販薬を選択した理由「病院に行く手間が省ける」「TV CM を見て」
- ◆効果、安全性、価格面、利便性などすべての面において、処方薬への期待が市販薬を上回る
- ◆医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者の 41.9%が「指示通り服用している」、
余った処方薬「とっておく」63.3%
- ◆受診先クリニックの選択理由「鼻症状を治したい」、
医師に期待すること「症状の原因についておしえてほしい」

調査結果報告書は http://www.qlife.co.jp/news/171031qlife_research.pdf からダウンロードできる。

◆医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者

約3人に1人「通年性アレルギー性鼻炎と季節性アレルギー性鼻炎の合併」と推定

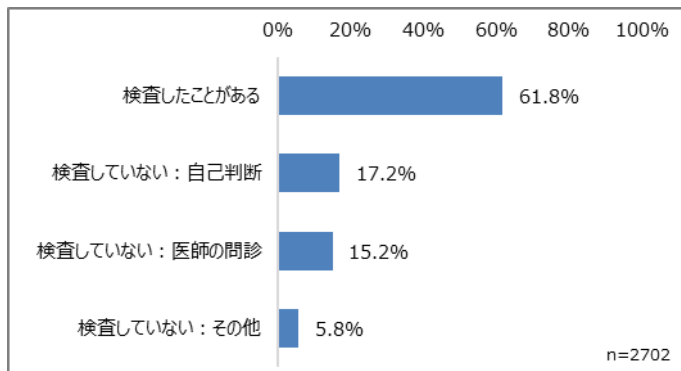
「1年中、同じ症状がある」と回答した患者は26.1%、「特定の季節だけ」は39.4%、どちらもあるとした回答が34.5%だった。



◆アレルギーの原因物質の特定について、

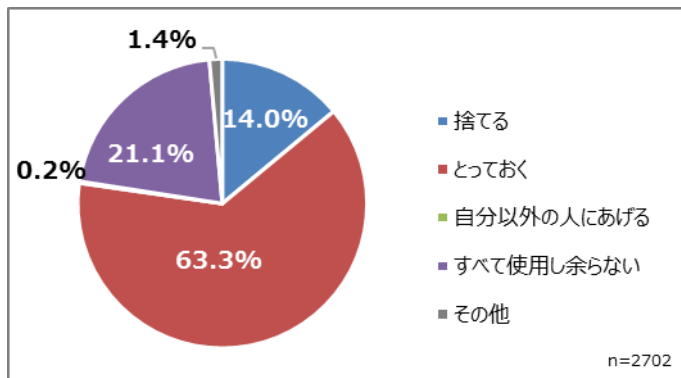
医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者の17.2%「検査しておらず、自己判断」

アレルギーの原因物質について、検査したことがある患者は61.8%だった。検査しておらず、自己判断と回答した患者は17.2%だった。



◆医療機関に通院中のアレルギー性鼻炎患者 余った処方薬「とっておく」63.3%

「とっておく」が最も多く63.3%。ほか、「捨てる」14.0%、「自分以外の人にあげる」0.2%だった。

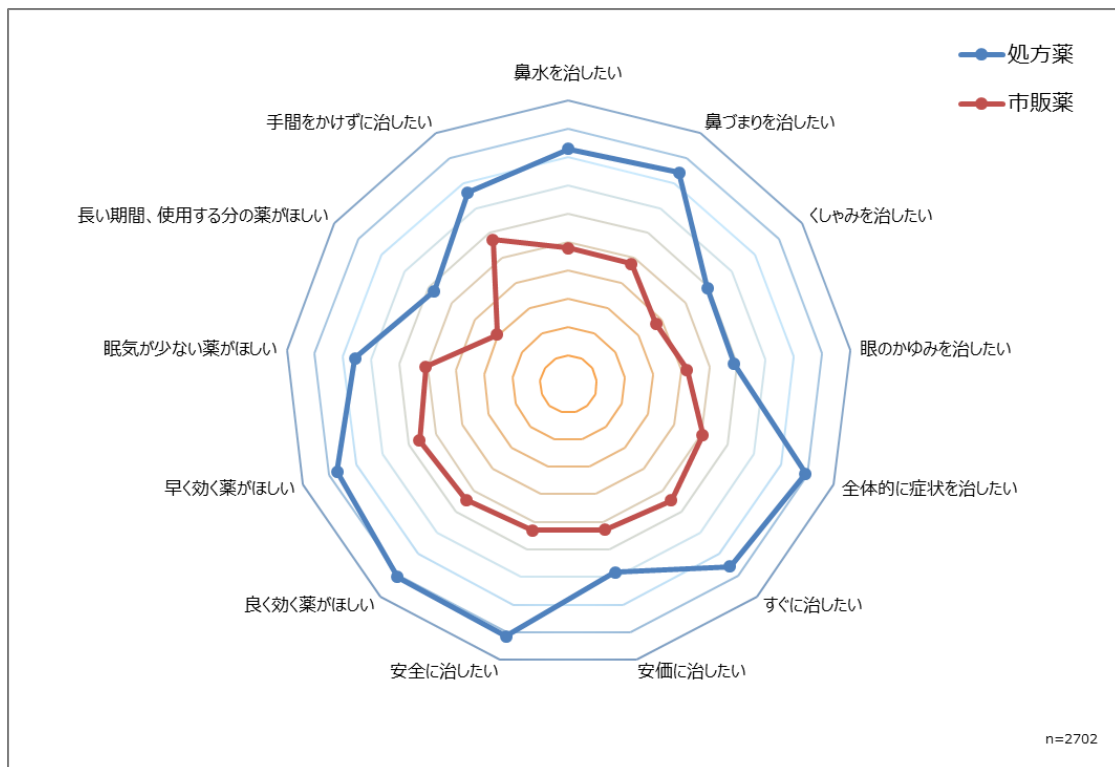


◆効果、安全性、価格面、利便性などすべての面において、処方薬への期待が市販薬を上回る

処方薬で「非常にあてはまる」が最も多かったのが「安全に治したい」で75.8%、次いで「良く効く薬がほしい」74.6%、「全体的に症状を治したい」71.8%の順となった。一方、「全くあてはまらない」が最も多かったのは「眼のかゆみを治したい」で13.0%だった。

市販薬で「非常にあてはまる」が最も多かったのが「早く効く薬がほしい」で41.5%、次いで「安全に治したい」41.3%、「手間をかけずに治したい」41.2%の順となった。一方、「全くあてはまらない」が最も多かったのは「長い期間、使用する分の薬がほしい」で26.2%だった。

処方薬は市販薬に比べて、全般的に期待値が大きく、特に効果や安全性に対する期待値が大きいことが分かった。



<株式会社 QLife の会社概要>

会社名: 株式会社 QLife (キューライフ)

所在地: 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-11-44 赤坂インターシティ 10F

代表者: 代表取締役 有瀬和徳 設立日: 2006年(平成18年)11月17日

事業内容: 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念: 医療と生活者の距離を縮める URL: <http://www.qlife.co.jp>

本件に関するお問い合わせ先:

株式会社 QLife 広報担当 田中 TEL : 03-6685-2515 / E-mail : info@qlife.co.jp